

マンボカー パラダイス

東京モーターショー禁止



月日が流れるのは早いもので、またたくまに2年が過ぎて「東京モーターショー」が開催される時期がやってきました。「安全性」とか「地球環境にやさしいクルマ」といったメロハリにかけのテーマの今回は、地味なコンセプトカーと、こんな情けないスベックとタサイネザインの電気自動車に一体だれが乗るの?といった感じで、正直なところ、私もなんでもこんな遠い幕張メッセ(千葉でやっておきながら、東京モーターショーとかいっているし、ホントめっちゃくちゃ遠い)まで来て、なんじゃいこのいいかげんなハリボテばかりの展示は!と憤慨したものです。今年、好調のRVブームといつてもあつて、にわかアウトドア野郎向けの四駆とか各社一斉に出しているのではという推測から、それなりに盛り上がりそうな気もしますが、それにしてもそろそろ期待できるものではありません。だいたい前回、地球環境や、エコロジーがどうのこうのいつておいて、RV車とはなににごとで

すか。RV車が増えれば、その結果、週末ごとに排ガス撒き散らす大型のクルマが、緑豊かな自然へ向かって大移動。こんなことになって、どこがエコロジーですか。喉元過ぎれば熱さ忘れるで、いったんエコロジーブームとかいうのが過ぎてしまつと、とたんに元に戻つてしまつという日本人の最も悪いパターンのような気がします。バブル経済が破綻して、自動車メーカーに対して融資していた銀行なども経営が危ぶまれているなかで、それでもまだ夢見がちな未来のコンセプトカーとかいって、堂々と回転テーブルの上で展示するメーカーがあつたらそれは大変立派なことです。

開発費を削られまくっている現場の声を無視して、ますます大手広告代理店主導の目先優先のハリボテ車展示会になってきている「東京モーターショー」は、いつそのこと中止、いや禁止すべきだと思ひます。都市博中止のとおりに「お祭り効果」みたいなことも、そんなに期待できるとは思いませんし、だからうちこの先2年おきに開催していったところで、格段の技術革新とかも起こりそうにありません。小さい頃、交通の図鑑とかいう本のさし絵で、20年後の未来の都市というのがありました。そこには地中に赤い色の地下鉄丸の内線、外ではタイヤの無いエーカーが、びゅんびゅん走っているというのが載っていました。もうあれから20年以上経っています。しかし依然として自動車からタイヤ

は消えていません。エーカーとまではいわずとも、エネルギー革命とか、動力革命とか真剣に考えて、現実化できそうになつたところでもまだ「東京モーターショー」をやればいいんです。電気自動車やメタノール車が、その解答になんて今は聞きたくもないです。じっくりその間、考えればいいのです。お祭り騒ぎに投資する金があるのなら、未来のことに使う方が賢明ではないですか。

どこか一社くらい、そんなことをいつてモーターショーはこの先辞退するけれど、何年か先にとんでもないクルマを創つてお目にかけます、なんていつごろ出てはきませんか。もうガンリンで走るクルマの時代じゃないですよ。

PARADISE YAMAMOTO

【プロフィール】

スバルレガシィツーリングワゴンをはじめカーデザイナーとしての活躍のかたわら、パラダイス山元と東京ラテンムードテラックスのリーダー。デビューCD『洋酒天国』に続く第2弾シングル「それでもいいの」(インディビジュアルレコード 03・3400・6035)好評発売中。パラダイス山元選曲・監修による『東京キューバンボーイズテラックス』(東芝EMI)は、全曲収録の超テラックスなラテンアルバムでこちらもオススメ。



BOARDING SPORTS

〒611 京都府宇治市大久保町旦椋130-10安田ビル3F

TEL 0774-44-3115